岩手県山田町

株式会社ティエフシー

T（東北）F（復興）C（カンパニー）社名が表す復興への思い

約10カ月にわたる技術研修を受けたスタッフたち

広島県尾道市から山田町へ進出

株式会社ティエフシーの執行役員、神原耕治氏は、東日本大震災当日のテレビ映像を今も鮮明に記憶している。「大津波にあおられ、陸に打ち上げられる船の姿は、造船に携わる者として、あまりにもショッキングなものでした」と語る。

親会社のツネイシクラフト&ファシリティー株式会社（以下ツネイシクラフト社）の代表取締役社長、神原潤氏は、造船を生業とする者として、どのような支援ができるのかを見極めたいと、広島県尾道市から山田町の現地調査に向かう。多くの船舶が失われた実態を目の当たりにして、FRP中古船※12隻を寄贈。さらにFRP船8隻の修理を行った。

「その後、町や商工会、漁協などの関係者か

※FRP船とは、ガラス繊維などを加えて強度を向上させた繊維強化プラスチック（FRP）で建造した船。

■ 企業情報

社名　株式会社ティエフシー
業種　船舶建造・修理業
代表取締役　神原潤氏
所在地　岩手県下閉伊郡山田町大沢第1地割59番地
TEL.0193-82-1125　FAX.0193-82-1126
HP.http://touhoku-fc.com

株式会社ティエフシーは、2011年7月、広島県尾道市のツネイシクラフト&ファシリティー株式会社の子会社として設立された。社名には被災地とともに歩み、復興への礎を築くという決意が込められている。

ら、被災して職を失った若者の雇用創出を要請され、神原社長は会社設立を決断しました」と神原耕治氏。被災地の復興への思いを社名に込め、アルミの船舶の建造・修理を主業務とするティエフシー（T＝東北、F＝復興、C＝カンパニー）は、こうして震災のわずか4カ月後に誕生した。スピードを優先し、採算は二の次に考えた経営トップの判断があったからこそ実現した会社だった。

10カ月にわたる研修で技術者に育成

設立されたティエフシーは、ただちに社員の募集に取りかかり、4期に分けて山田町、大槌町、宮古市出身の計15名を採用。そのうち14名は元ホテルマンなど、造船などの技術とは無縁の経歴の持ち主だった。全員が広島のツネイシクラフト社で、約10カ月にわたって溶接などの技術研修を受け、2012年10月に完成した「TFCやまだ工場」での勤務を始めた。「溶接技術の習得には皆、苦労したようですが、日に日に腕を上げています」と神原耕治氏は言い、一人前の造船技術者と呼べる技量の持ち主も育ってきているそうだ。一方、山田町も新会社設立に応え、「緊急雇用創出事業補助金」を国に申請。「造船技能者養成事業」として彼らの技能習得をバックアップした。

■ ティエフシー社員が受けた主な研修や習得した資格・免許

研修

・ガス溶接作業	15名
・玉掛け（1t以上）	15名
・移動式クレーンの運転（1t以上５t未満）	７名
・アーク溶接特別教育	14名
・特定粉じん作業特別教育	15名
・振動工具特別教育	15名
・酸欠作業特別教育	10名
・騒音特別教育	15名

免許・資格

・５t以上のクレーン運転士	３名
・２級小型船舶免許	３名
・アルミ合金の溶接士（日本溶接協会、A2V級）	15名
・アルミ合金の溶接士（日本溶接協会、A2Z級）	５名

同社では当初、ツネイシクラフト社の人的応援を受け、アルミ船の建造に取り組んでいたが、2017年3月には現地スタッフのみで建造した船が初めて進水した。その「海童丸」は山田町が船主で、漁業体験などのイベントの際に、子どもたちを乗せて山田湾などを航行している。現在は、オリジナル商品であるアルミ浮揚型津波シェルターの製造・販売にも力を入れている。

船の建造によって山田町の漁業や観光などに貢献し、雇用の確保も果たす。ティエフシーは着実な歩みを続けている。

今やスタッフは一人前の造船技術者に